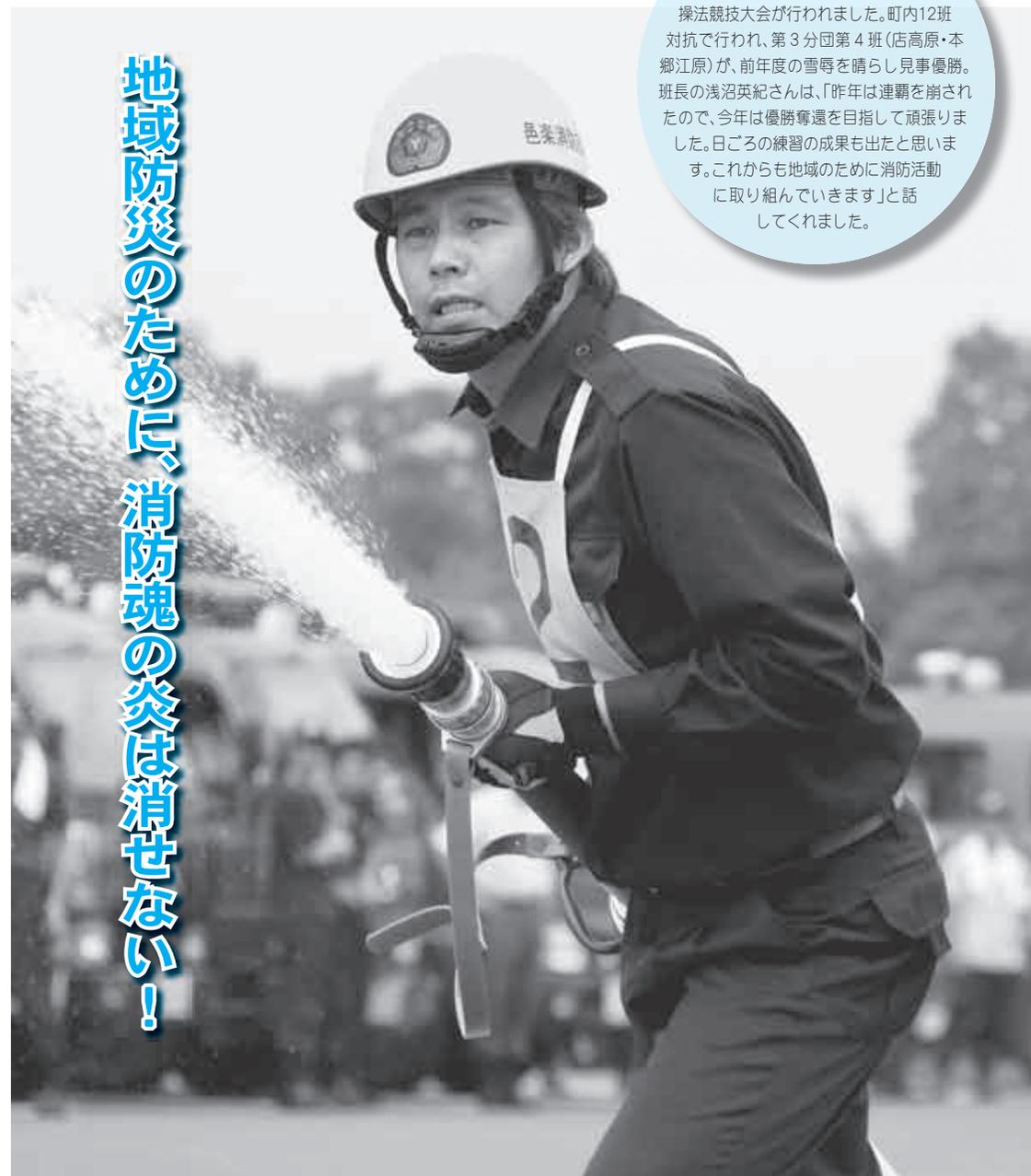


PHOTO PALETTE



7月4日、役場庁舎南側
駐車場で第37回邑楽消防団ボン
探法競技大会が行われました。町内12班
対抗で行われ、第3分団第4班(店高原・本
郷江原)が、前年度の雪辱を晴らし見事優勝。
班長の浅沼英紀さんは、「昨年は連覇を崩され
たので、今年は優勝奪還を目指して頑張りま
した。日ごろの練習の成果も出たと思いま
す。これからも地域のために消防活動
に取り組んでいきます」と話
してくれました。



地域防災のために、消防魂の炎は消せない！

新潟県の郷土料理に挑戦



7月13日、邑楽町公民館でお国自慢料理講座《新潟編》が行われました。講師を務めた新潟県出身の福岡くんにさん(馬場大林・25区)は、「実家に帰って、ちまぎの材料のくまざさを採ってきました。新潟に古くからある郷土料理を、皆さんに知ってもらいたいですね」と話してくれました。

七夕短冊に願いを込めて



7月7日、北保育園で七夕の集いが行われました。園児たちは、願いごとを書いた短冊をささの葉に結んだり、飾りつけをしたりして楽しみました。石井暹くん(谷中蛭沼・11区)は、「短冊に大人になったら警察官になって、白バイに乗れますようにと書きました」と話していました。

作品作りに集中しています



7月15日、ヤングプラザで青年初めての陶芸講座が行われました。この日、参加者は思い思いの花器を作成。田中裕さん(寺中・26区)は、「初めて陶芸を体験しました。思いのほか仕上げの形を整えるところが、難しかったです。これを機に、趣味にしてみたいですね」と話していました。

町の歴史 連載三百四十五回 町の年代記 47

細谷清吉(歴史研究家)

細谷右馬助秀国(十四)
館林城の内乱を引き起こした毛呂因幡守季忠を討つため、長尾但馬守頼長に味方する二千二百余騎は館林城大手の谷越へ押し寄せた。一方、搦め手は毛呂季忠の居城大森城を攻め、合戦は相引となり和睦したが、元龜元年十一月十七日、善長寺において毛呂父子は切腹せられて、内乱は終息しました。毛呂季忠の乱を鎮定した足利城主長尾頼長は館林城に入り、足利館林城主を兼ねました。毛呂季忠や忍城(行田市)の成田氏と気脈を通じていた小田原城主北条氏政は、元龜二年九月、大軍を東上野館林へ差し向けました。

この小田原北条勢は利根川を渡って、仙石の小泉城出城の岡山城を攻め、ついで館林城や小泉城を攻めました。小泉城では三百余騎が出撃し、その中に細谷右馬助義重と細谷与一郎がおりました。敵方の小田原北条勢の大將浅間四郎兵衛が百余騎を率いて魚鱗の陣形で攻めかける。小泉方からは浜野弾正と細谷与一郎が手勢百五十騎で、鶴翼の陣形に開いて、敵兵をその中に取り込める作戦に出ました。寄せ手の小田原北条氏は数多く討死しました。小泉方も三十余騎が死傷しました。浜野弾正は浅間八郎左衛門を討ち取り、細谷与一郎は將下田縫殿を討ち取りました。

の長大刀を馬の平くびに取りそえて、しずしずと進み出て「われこそ、新井丹後守なり」と大音声に呼びわりながら敵陣に駆け入り、当たるをさいわい、なぎ倒す。寄せ手の中からは今川出雲守が名乗り出て、かけ合いましたが、たちまち新井の長大刀に打ち倒されました。

新井に続いて小泉城方からは細奈おしの大よろい、鹿毛馬(茶褐色の馬で、たてがみと尾、四本の足の下方が黒い毛の馬)にうち乗って、因幡の指物(うちわの紋様がある小旗で、よろいの背にさして戦場の目印とするもの)を着けて、大身の槍をひさげた松井丹波守を先頭にして、茂木・久保田・原・風間・近藤・根岸・村岡・川上らの五百余騎が、いっせいに攻めかける。西軍入り乱れて巴から申の刻午前十時から午後四時)まで続き、かけ合ひり六十余度、細谷右馬助が戦う場面もありました。



小泉城跡(城の内公園)